

Libra | on

vol. 46

<http://www.libra-sc.jp>

りぶらいおん

特集 1 : 10/28 開催『めぐる、QURUWA』

特集 2 : 新任岡崎中央図書館長のご挨拶

りぶらサポータークラブから
活動コーナーのイスに
「背もたれカバー」を
寄贈しました



大勢の方に利用されている市民活動コーナーのイスの背に、一昨年前ごろから背もたれの破れが目立ってきました。そこで、「布絵本作り」の皆様のお力を借り、31枚の「背もたれカバー」を制作し、7月27日に市に寄贈することができました。

- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.41 『経営とデザインの幸せな関係』
- 市民活動団体紹介「岡崎歴史探求班」

公共空間でまちの未来を体感する 10/28 開催『めぐる、QURUWA』



乙川RF 地区エリアのマップ（公共空間黄色に塗りつぶしたものの）

QURUWA とは？

岡崎の中心市街地に設定された約3kmの主要回遊動線を「QURUWA（くるわ）」と言います。名鉄東岡崎駅、(仮称) 乙川人道橋、籠田公園、リぶら、岡崎公園など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線（主要なまちめぐりルート）は、かつての岡崎城跡の「曲輪（くるわ）」の一部と重なるところがあり、また、動線が「Q」の字に

見えることから、「QURUWA」と表記されました。岡崎に人が「来るわ」という意味も込められています。

そのQURUWA周辺の「公共空間（道路や河川、公園など）」を舞台に、市民や民間事業者と共に、将来こんなまちで「遊びたい」、「働きたい」、「暮らしたい」と思える時間と体験を形にした、公共空間

でまちの未来を体感できる社会実験、『めぐる、QURUWA』（10月28日）が開催されます。

社会実験では、公共空間を活用するうえで求められるルールのもとで、「遊ぶ」「食べる」「働く」「暮らす」といった企画が実現され、まちに暮らす人や訪れる人たちが、これから描きたいと思う「まちの未来の風景」が形になります。



会場となる公共空間

まちの再生を図る「乙川リバーフロント地区整備計画」

そのような機会をつくることになった背景には、岡崎の中心市街地が抱える課題があるようです。今回の社会実験の舞台となる中心市街地では、この数十年の間に、徐々ににぎわいが失われてきてしまいました。岡崎市全体では人口が増えているにも関わらず、中心市街地で暮らす人も訪れる人も減少しています。この地区の約半分は公園や広場・道路などの公共区間となっていますが、それらの多くは積極的に使われているとは言えない状況です。

こうした事態を受け、中心市街地を再生するために、2015年度からの5年間で「乙川リバーフロント地区整備計画」がスタートしました。ここでは、新しく乙川にかかる人道橋を含む乙川河川緑地、中央緑道・籠田公園の再整備などに公共投資がされるとともに、公共用地を積極的に活用して、まちの役割と使い方を更新するような公共主導の「大きなリノベーション」と、民間の遊休不動産を活用して、魅力的なコンテンツをまちに増やす民間主導の「小さなリノベーション」が行われています。

具体的には、乙川河川敷や水上

で、民間事業者による多様なプログラムが実施され、水辺空間活用のあり方を模索するプロジェクト「おとがワ!ンダーランド」が開催されたり、空きビルや空き家を活用した「wagamama house」や「一隆堂喫茶室」など、地域の拠点となるようなお店もオープンしました。また、2017年2月に行われた「まちのトレジャーハンティング」では、市民有志が専門家と一緒にまちの近未来を予感させるエリアビジョンを作成しました。

このように、中心市街地の魅力を生かした大小のリノベーションを通じて、市民と行政が手を取り合い、持続可能な都市経営を実現することに向けて動きが起きてきました。中心市街地には、岡崎城のある岡崎公園・商店街など、様々な企業や「りぶら」などがあり、日々様々な人が暮らし、訪れています。このまちにある既存の地域資源やまちの担い手と連携しながら、先ほどあげたような大小のリノベーションの手法も活用することで、いずれこのまちが「ほしい暮らし」をより実現できるまちとなり、更に魅力的に見えてくるのではないのでしょうか。



トレジャーハンティング



Quruwa Future Vision



アウトドアウェディング



一隆堂読書室



働き方改革



wagamamahouse

まちに様々な変化の兆しが見えています。

社会実験の試み

例えば「図書館で借りた本を、芝生で寝ころびながら読みたい」、「ハンモックで揺られながら音楽を聴きたい」、「公園で美味しいコーヒーが飲みたい」など、まずは日常の些細な一コマからの試みとして、10月28日はそのような公共空間の未来を体感する1日になるようです。

7月中旬に行われた社会実験の参加募集説明会では、社会実験当日に“企画を実施したい”というみなさんから、「アウトドアウェディングを実施したい（新郎新婦募集中!）」、「星空観賞会をしたい」「アート作品を展示したい」といった声があがりました。企画の実現に向けては、各種法令などに基づいた企画審査の上、市民と行政とで一緒に進められます。

まちに関わる人々と暮らす人々が、まちの魅力をつくるエンジンとなって、わくわくを予感させる姿を共に描き、見て、触れて、飛び込んで、自分たちのまちを感じ取ることができるようになるといいですね。みなさんも公共空間でまちの未来を体感してみたいかがでしょうか？

「おとがわプロジェクト」の担い手も募集されています。サポーターとしての参加もありです！詳しくはHPをご参照下さい。



説明会の様子

【『めぐる、QURUWA』実施概要（予定）】

日時：2017年10月28日（土）終日

場所：QURUWA 全体

（籠田公園～連尺通り～シビコ～りぶら～乙川河川敷）

主催：岡崎市

運営：NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた

おとがわプロジェクト WEB サイト <http://otogawa.jp/>

（詳細は順次公開）



「りぶら」周辺の移り変わりから 図書館の未来を見据えて

岡崎中央図書館長 爲井温人（ためいなおひと）



昭和58年に入庁して、7か所ほどの部署を経験して、この4月に市民スポーツ課から異動してきました。実は、4年前に1年だけ中央図書館の総務班に在籍しましたが、予算や庶務的な事務、その他雑務などを処理していて、本来の図書館サービス業務には全く携わっていませんでしたので、素人同然です。ましてや、3月までは3年間市民スポーツ課に在籍し、市民のスポーツ振興や生涯スポーツの普及に取り組み、市民駅伝やおかぎきマラソン、市民体育祭等のスポーツイベントの開催、スポーツ施設の管理運営の仕事をしてきて、全く正反対の図書館という文化、生涯学習の核であるところに異動してきたので、戸惑いを感じました。そうとばかり言っておれないので、前を見据えて進んでいきたいと思っています。

図書館交流プラザも来年度開館10年目となり、一つの節目を迎えます。図書館もいろいろな取り組みをしてきました。5年前には大規模な図書館システムの入替え、今年度はそのシステムの更新を予定しています。地域資料（郷土資料）の収集に力を入れており、この地方にゆかりのある徳川家康をはじめ菅江真澄、鶴田卓池については文庫としてまとまっています。家康に関する資料数は誇れるものと実感しております。

今年の1月には読書通帳機を導入し、子どもの読書意欲推進のきっかけの一つとなるよう取り組んでいて、少しずつですが15歳以下の児童の貸出冊数が増えてきているところです。また、今年度は8月に書籍消毒機の導入を予定しており、本の雑菌の除菌、ほこり等の除去、さらにはほこり等から出る臭いなどの消臭で利用意欲の上を図っていきます。そして今年度末の2月には、額田支所周辺施設整備ということで、額田図書館が額田センター

という複合施設の中に集約され、施設の規模、蔵書数は減りますが、独立した部屋として図書スペースがあり、専任職員を配置し図書サービスを行っていきます。図書館も佇まいは変わらないけど、日々、生き物のように動きがあり、利用者の声に答えるべく、職員が知恵を絞ってさまざまな事業展開を図っているので、継続していきたいと思っています。

実は自分自身、この連尺学区内に子どもの頃から住んでおられて、今現在の「りぶら」や高層マンションが建っている界隈の移り変わりを見てきました。自分が子どものころ通った連尺小学校は、当時この図書館交流プラザのある地に建っておりました。3年生の夏に、今の城北町の地へ移転しました。その後、流水プール、アイススケート場、ボウリング場のあるスポーツガーデンが開設され、大型の商業施設が順次建てられ、岡崎の中心市街地康生通、本町通の隆盛を極めていました。そして時は移ろい、今は「りぶら」と高層マンションですが、連尺のように多くの利用者がこの「りぶら」と中央図書館に来館されます。さらに魅力ある図書館を目指して、取り組んでまいりたいと思います。

終わりに自身の読書歴ですが、若いころは、勢いに任せてわりと読んでいたのですが、年を取るにつれて減ってきています。活字が見づらくなっています。単純なので難しい本は敬遠し、ミステリやSFが好きなのは、子どもの頃のままですね。コナン・ドイルのシャーロック・ホームズがきっかけになって、夢中になりました。今はたまに時代物も読みます。



りぶら中央図書館情報

ブックスタート対象年齢を引き下げます！

☆ブックスタートとは☆

ブックスタート事業は、親子が「ことば」を通じたあたたかな時間をわかちあうきっかけとして、この地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者に、絵本を開く体験と一緒に絵本を手渡す活動です。赤ちゃんと保護者の方一組ずつに絵本の読み聞かせを行い、絵本の入ったブックスタートパックをプレゼントします♪

☆平成29年10月から、対象年齢を引き下げます☆

対象者：生後4か月以上1歳6か月未満の赤ちゃんとその保護者
※ 岡崎市以外の自治体でブックスタートを受けた方は対象外です。

場 所：岡崎市立中央図書館（りぶら内）子ども図書室おはなしのへや
受付日時：毎週月曜日 10:00～11:30/13:30～15:00

毎週木曜日 13:30～15:00（図書館休館日を除く）

※ 所要時間は10分程度。上記の時間内に受付をお済ませください。

持ち物：母子健康手帳、ブックスタート案内状

生後6か月→4か月
に変わります♪



ブックスタートの様子

☆こちらでも実施しています☆

南部市民センター図書室：奇数月（1・3・5・7・9・11月）

額田図書館：偶数月（2・4・6・8・10・12月）

受付日時：第1木曜日（休館日を除く） 10:00～11:00

※ 平成30年2月の額田図書館での実施日は22日（木）です。

担当：中央図書館 資料提供サービス係（電話 23-3115）

中央図書館1階レファレンスカウンター「レファレンス事例集」

9月1日は「防災の日」ですね。

防災の意識が高まるこの時期、土地の呼び名と自然災害に関する事例をご紹介します。



質 問	崩壊地名について書いてある本が見たい。（特に愛知県について書いてあるもの）
回 答	『崩壊地名』という資料が出版されているが、当館所蔵なし（愛知県内の図書館にはあり）。「災害地名」ともよばれ、古くからの地名には先人が土地のくせなどを、地名に託しているとされる。 【資料1】 p 118-131 【資料2】「調査報告「地名の話」」 p 3-5 に災害地名の項目あり。 【資料3】 p 117-136 に「愛知・岐阜の災害地名」の記述あり。 【資料4】「茶臼山」の項目 p 79、「全国の主な地すべり防止区域」 p 168-171 に愛知県の地名あり。愛知県としてはまとまっていないが、災害地名に関して他に【資料5～7】などがあり。
キーワード	崩壊地名 災害 地名
参考資料	【資料1】『愛知の地名』中根 洋治 著／風媒社／2012年／A290ア 【資料2】『〔岡崎地方史研究会〕研究紀要 第三十七号』長坂一昭 編／岡崎地方史研究会／1993年／AO233ケ 【資料3】『地名は警告する』谷川 健一 著／富山房インターナショナル／2013年／291.0チ 【資料4】『地名の語源が意味する地すべり危険地帯』小川 豊 著／山海堂／1998年／自動車庫 【資料5】『災害・崩壊・津波地名解』太宰 幸子 著／彩流社／2013年／G 291.0サ 【資料6】『この地名が危ない』楠原 佑介 著／幻冬舎／2011年／I 291.0コ 【資料7】『地名は災害を警告する』遠藤 宏之 著／技術評論社／2013年／291.0チ



私の一冊 vol.41

「経営とデザインの幸せな関係」

中川 淳／著 日経BP社



金城 明日美
(かねしろ あすみ)

岡崎市立中央図書館に勤務して9年目を迎えます。昨年より、図書館の新サービス“図書館のおもてなし”を担うフロアアテンダントのリーダーを務めさせていただいています！
図書館でお困りの際は、お気軽にお声掛けください！



みなさんは“ブランディング”という言葉をご存知でしょうか。

私がお紹介する1冊は、ズバリ、その“ブランディング”について書かれた1冊です。私は、著者の中川淳さんのインタビュー番組をたまたまテレビで観て「おもしろい方だな〜。」と思い、それがきっかけでこの本を手に取りました。

著者の中川淳さんは、老舗の中川政七商店の十三代目社長として、「日本の工芸を元気にする！」というビジョンを掲げ、自社ブランドの設立や、会社の建て直しを経てその経験を生かし、現在では衰退しかけている工芸業界の経営コンサルティング事業も手がけている、いわばやり手の社長さんです。中川政七商店のお店を訪れたことのある方も多いのではないのでしょうか。

この本は、日本のものづくり企業(工芸)が生き残っていくために何をしていけばいいのか？どう考えていけばいいのか？の部分、経営、商品開発、広報、流通、お金のことなど、課題のを見つけ方から答えの出し方を含め、具体的に実行に移していく手段を、実際に著者がコンサルティングに携わった企業の事例に触れながら紹介されています。内容はシビアな部分もありますが、足りないものを足していくことや、新しい視点で工夫をすることで、夢を実現させる方法がいくつも盛り込まれています！

はじめにお伝えしておきますが、特に私は起業したい！と思っているわけではありません(笑)。そのような私が、いわばビジネス書の類の本を読んで理解できるのか？と私自身思っていました。この本を読んで、日本の工芸と図書館は似ている部分があるなあと思いました。

良いものを作っていれば必ず売れる、という時代はもう終わってしまいました。安価な外国製品に押され、良いものがどのよ

うにいいのか(価値)を、正しく消費者に伝えていかなければ日本の工芸は生き残りません。図書館も同じように、「活字離れ」や「インターネット」に押され、便利なものが増えた分、図書館で調べ物をするのが、「不便」や「面倒」と捉われかねない状況になっています。図書館も生き残りをかけ、工夫を凝らした「新しい印象の図書館」が、ここ最近では全国に増えてきています。「図書館」というブランドをどう盛り上げていくのか？という課題が出てきています。

その流れもあり、昨年より岡崎市立中央図書館では、図書館を訪れた方が、もっと気軽に図書館についての疑問を訊きやすくする仕掛けとしてフロアアテンダントサービスをはじめました。発足当初、この本に書かれているブランディングの手法を参考にし、図書館での“おもてなし”はどのようなものが良いのだろう？という課題からスタートし、今図書館に何が必要なのかを探り、サービスの内容を作っていました。現在もまだまだ模索中で、壁にぶつかったときには、この本を開いてヒントをもらっています。他業種のことであっても、いろいろ置き換えることができ、共感できるころや気づかされることも多く、良い刺激をもらうことができました。

何か新しく始めようとしている方、現状に満足できずモヤモヤしている方、夢をかなえたい方はもちろん、個人レベルの「自分」という個性を作るのも、ブランディングの考え方が参考になります。難しそう…と思われるかもしれませんが、“ブランディング＝夢を実現させる方法”と思ってこの本を手にとってみてはいかがでしょうか？きっと何かのヒントとなり、夢を実現させる力となるはずですよ。

市民活動団体紹介

歴史ロマンで岡崎・三河を盛り上げる『岡崎歴史探求班』

三田村千晴:0564-32-2560 roze31800@yahoo.co.jp

はじめまして。私たちは『岡崎歴史探求班』といいます。その名の通り、歴史好きが集まったクラブです。普段はおもに、同級生同士である二名が中心となり、岡崎市や三河地方に残る伝説や言い伝えを取材して廻っています。

岡崎市は、何ととっても徳川家康公が有名ですよ。徳川家に纏わる史跡や神社・言い伝えなどは数限りなくありますし、他にも、家康公や家康公に関わる武将たちが大好きで、熱心に研究されている方々も大勢いらっしゃいます。私たちのクラブでも、もちろん徳川家や松平家の資料を集めたり、史跡や仏閣を廻ってはいるのですが、それはまだまだほんの一部です。どちらかといえば徳川以前の歴史に注目し、岡崎市が家康公を排出するまでに至った経緯を、古代にまで遡って取材しています。

というのも、班員である私自身が現在住んでいる地域が矢作であり、矢作には日本武尊(ヤマトタケル)を始めとする古代の伝説が多く残る地域でもあるからです。岡崎市って、徳川以前の歴史にもけっこうすごい話があるんですよ。

たとえば日本武尊(ヤマトタケル)は、ヤマタノオロチを退治したといわれる、とても有名な伝説上の人物です。その日本武尊が、川に生えている竹で矢を作ったから、この辺りの地名は「矢作」。そしてその川の名も「矢作川」と名付けられたと伝わっています。また、宇頭町にある蓮華寺のすぐ隣には、大

きな前方後円墳を見ることができるのですが、そのお墓の主は、なんと日本武尊の弟と言われています。しかも、宮内庁にも認められている古墳です。お墓が残っている、なんて聞くと、伝説上の人物であったはずなのに、急に現実味を帯びてくると思いませんか?もしかしたら、ほんとうに実在した人物で、ほんとうに実在した兄弟だったのではないかと。

実は私も、このクラブを始める前は、まったく歴史には興味がありませんでした。しかし、こうして地元で取材を続けると、私たちが住むこの地元には、さまざまな歴史の痕跡が残っていることに気がつきました。確かに、歴史を知らなくても普段の生活には影響はないかもしれませんが、しかし歴史には、先人たちの知恵と情熱とロマンがたくさん詰まっています。私が面白さに気がついたように、ひとりでも多くみなさんに歴史の面白さが伝わるといいなと、そんなふうに思っています。

なぜ、日本武尊はこの地にいたのか。なぜ、矢を作る必要があったのか。そして、その有名な人物の弟のお墓が、なぜ、私たちが住む岡崎市に残っているのか。ありとあらゆる想像力をかき立てながら、日々、ロマンとドラマを追いかけています。ぜひ、一緒におつきあい下さい。歴史ロマンで、岡崎・三河を盛り上げましょう!



↑真福寺の仁王門前(真福寺町)の三田村



↑北野廃寺想像図(北野町):図書館所蔵



↓村積神社のはじめ狛犬(奥山田町)



↑1300年前に植えられたというしだれ桜(持統桜)(奥山田町)



←龍溪院の仁王像(桑原町)



←岡崎歴史探求班の班長 坂本純二さん



↓千体地藏菩薩 誓願寺(矢作町)

Libra lon vol.46 2017/9/1 発行 2008/11/1 創刊 ◆編集・発行:りぶらサポータークラブ
〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地 岡崎市図書館交流プラザ市民活動センター内
TEL/0564-23-3114 FAX/0564-23-3142 携帯電話:070-5252-7263
lsc-office@libra-sc.jp http://www.libra-sc.jp 事務局:月・火・木・金:13:30~16:30

そうだ!りぶらをサポートしよう!
(1)活動サポーター(登録のみ)
(2)賛助サポーター(年会費)2,000円
随時、ご寄付も受け付けています。